

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2770104251		
法人名	社会福祉法人エージングライフ福祉会		
事業所名	グループホームクレーネ塚 グループ2		
所在地	大阪府堺市中区福田339番地2		
自己評価作成日	平成 24年 8月 23日	評価結果市町村受理日	平成 24年 10月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action=kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigyosvoCd=2770104251-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 9月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの意向を尊重しながら、くつろいで過ごして頂く為に居室は和室とし親しみのある物を家族と相談しながら自由に持ち込んで頂いている。共有空間においても四季折々の花や作品を飾り季節感を感じて頂き、やすらげる空間作りにも努めている。出来る限り役割を持ち、意欲的に生活して頂けるような取り組みや交流機会を設け、日々の生活に楽しみを感じて頂きながら自立した日常生活を営む事が出来るよう、職員や様々な関係者で利用者を支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に定着している社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。ホームは3階建ての1階に位置し、デイサービスセンターや特養を併設しています。ホームでは食堂や玄関に四季折々の花を掛け、メダカの水槽を設置し、生き物と接する機会を設けるなど、利用者がゆっくと落ち着いて過ごせるように配慮しています。職員は毎月、利用者の写真入りのお便りを家族に送付し、利用者の様子を知らせると同時に家族からの意見が出やすいように配慮しています。運営推進会議には地域の自治連合会長が出席し、利用者が地域との繋がりをもちながら暮らし続けられるように尽力しています。法人理事長を始め職員も地域居住者が多く日常的に地域とのつながりがあり、利用者や職員は花火大会や夏祭りなど、地域の行事に参加して交流を深めています。提携医療機関医師と連携し、24時間医療連携支援を行っており、利用者と職員が安心して過ごすことができるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基に事業所独自の介護目標を掲げ、共通の視点を全ての人々が目に留まる場所に表示し、日々の業務に活かしながら、毎日の申し送りや業務会議等において確認を行っている。	法人理念に添ったグループホームの理念を明記し、玄関に掲示して共有しています。「1. その人らしいあり方 2. その人にとっての安心、快さ 3. 暮らしの中での心身の力の発揮 4. その人にとっての安全・健やかさ 5. なじみの暮らしの継続（環境・関係・生活）」を理念とし、職員は「あいさつ、笑顔、傾聴を大切に利用者様に接する」ことで理念の実践に努めています。職員は毎日の申し送りや定例会議で理念を確認し、利用者が地域の中で安心して暮らし続けられるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	利用者様、家族様も近隣の方々が多く、ご協力頂きながら地域行事や運動会、保育所や高校生との交流機会に参加させて頂いています。	地域の自治連合会長が運営推進会議に出席し、利用者が地域との繋がりを持ちながら暮らし続けられるように尽力しています。利用者や職員は、花火大会や夏祭りなど、地域の行事に参加して交流を深めています。職員は利用者の生活を豊かにするために、高校生ボランティアやはり絵、大正琴、ギター演奏等のボランティアの協力を得たり、落語慰問を受けたりしています。近隣の保育所から月に1回園児が来訪し、遊戯などを見せてくれます。ホームではデイサービスと合同の夏祭りを行い、地域にもよびかけて参加を得ています。また、同法人が運営するもう一つのグループホーム利用者と、地域の畑を借りて芋掘りを楽しんでいます。法人理事長を始め、職員も地域居住者が多く、日常的に地域とのつながりがあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	法人における相談窓口や日常的な交流の中で、認知症の方への援助方法や介護サービス、社会資源などの情報提供を行っています。また、近隣の事業所と協力しながら、認知症の啓発活動に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催し、利用者・家族・自治会長・民生委員・地域包括支援センターや他事業所の方々に参加して頂き、事業報告や事故報告等を行い、ご意見を頂きながら課題の改善に向けた取り組みを行っています。	運営推進会議は2カ月に1回、年6回の定期開催をしています。連合自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、利用者家族代表、知見者、管理者をメンバーとしています。開催日は委員が参加しやすいよう行事と併せて開催することもあり、家族も多く出席しています。会議では積極的な意見交換が行われ、最近では利用者の服薬支援、職員研修、行事・レクリエーション、家族の面会、家族集会、認知症の啓発活動について等、率直な意見交換をしています。職員は会議で出された意見や提案等を速やかにホーム運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議において、地域包括支援センター担当者への相談や助言を頂いている。また、管理者がデイサービスとの兼務において交流機会も多く連携を密に出来るよう努めている。	管理者は、何かあれば市（区）の担当者と相談しながらホーム運営を進めています。市（区）内のグループホーム連絡会に参加した際にも、市職員と話をすることがあり、情報交換や相談ごとも気軽にできる関係があります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>法人全体で委員会を設置し、拘束しないケアの在り方や安全性を含めた検討を行い、マニュアルを作成し全ての職員へ伝達している。しかし、安全面を優先してしまい、玄関はオートロックとしている。</p>	<p>「身体拘束ゼロ実践マニュアル」を作成し、身体拘束を行わない取り組みをしています。職員は鍵をかけないケアの必要性も理解しており、最近までは玄関のドアや居室の出入り口を開けて自由に出入りできるようにしていました。しかし、事故発生を契機に安全面を優先して玄関ドアは終日施錠しています。利用者が外出を希望される場合には、職員が付き添って外出しています。</p>	<p>ホームでは施錠を行っていることで利用者の自由を制限しているということを再認識し、今後は安全確保について様々な角度から検討を進め、利用者の自己決定や自由な行動を支援するよう取り組む予定にしています。玄関の施錠をしない取り組みに等について、今後の成果が期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で委員会を設置、研修会を開催しながら職員全体で防止に対する意識を高め、管理者を中心に見過ごされることがないように努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会を通じて制度の理解を深めている。必要に応じてそれらを活用している利用者様もおり、権利擁護が守れている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書にて十分な説明を行い、改定時も文書にて管理者が責任を持って説明することにより内容が統一され、不安や混乱を招かないよう納得して頂くまで説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し情報の収集に努めている。また、利用者様や家族様からの意見や要望等に対する窓口（担当者）を設置し、速やかに管理者に報告する体制を敷き、職員全体への共有に努め業務に反映させている。	毎月、利用者の写真入りのお便りを家族に送付し、利用者の様子を知らせるとともに、家族からの意見が出やすいような雰囲気作りをしています。また、家族が来られたら職員から利用者の様子を報告して意見や要望があれば聞いています。また、相談等の窓口担当者を設置し、利用者や家族の要望や意見が速やかに管理者に届くように、同じ情報を職員間で共有し業務に反映できるようにしています。ホーム内に意見箱を設置し、意見を出しやすくしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議を通じ意見や提案する機会を設けている。また、全職員が周知徹底できるよう議事録を作成し、ケアの向上を目指している。	管理者は日常的に職員の声を聞き、業務に反映できるように努めています。また、ミーティングや職員会議で出された意見をもとに、業務の改善を行ったり、個別に受けた提案を職員会議の議題としたりして、職員の声を反映するよう取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議や個別面談等により個々の考えや取り組みの把握に努め、個々の希望に応じて勤務調整を行い、勤務状況を判断しながら能力が発揮できるように法人内で人事異動を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において年間研修計画を作成し、毎月研修の機会を設けている。職員のスキルアップを図る為に職員からの要望に応じた研修内容としている。また、キャリアパスモデルの一環として個々に応じた目標設定を行い実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流機会や意見交換を行っており、年々活動内容も充実している。また、研修会参加への通達を行い、スキルアップへの支援を行っている。交換研修も企画されているが、現場スタッフの配置上の問題や希望者が特定の職員に限られてしまう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に至るまで面談を行い、接遇の基本を守りゆっくりと時間を掛けながら、現在の状況や意向などを把握し、体験入所を実施しながら本人様の不安解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接時において、不安や要望などに耳を傾け、共感的立場になって信頼関係を深めていく努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時のアセスメントに基づいて必要なサービスを見極め、併設した事業所や他施設との連携を生かしながら、意向に沿ったサービスの実現に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、会話やレクリエーション、共同作業など関わりを多く持つことで親近感が生まれ、役割や目的を持つことで相互支え合いながら、どのような事でも話せる信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が来所しやすいよう、挨拶や接遇の基本を守り、相談しやすい関係の構築に努めている。家族様には少しの時間でも来所して頂き、入居後も共に支えていくことを前提として、ご理解頂いている。また毎月お便りをして家族様との関係を大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の協力を得ながら外出を通じて馴染みの関係の継続に努めている。また定期的に連絡を行いながら、気軽に来所して頂けるよう環境の整備や職員全員が明るく挨拶し、笑顔で対応する様に心掛けている。	利用者が馴染みのスーパーや地域へ出かけたり、墓参りに出かけたり、友人と面談したりする等、家族の協力を得ながら、馴染みの関係が途切れないように支援しています。また、手紙やはがきを出したり、電話をかけたりする際の支援もしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態や関係性を把握し、座席や環境の整備を行いながら、少しでも関わり合いが持てるような行事やレクリエーションを実施し、共同で作業や役割がもてるよう支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後においても状態の確認や必要に応じて相談を受けている。同一法人内での変更ケースも多く、本人様や家族様との関係も良好であり、行事などの機会を通じ、これまでの関係性を継続し関わりを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全体で本人様の意向や希望、様々な角度から状態の変化を観察し、家族様からも情報収集し把握した上でカンファレンスを実施し、計画に反映させている。	職員は利用者の表情やしぐさ、言葉をそのまま記録するよう努め、様々な角度から利用者を理解する努力をしています。職員会議や申し送りにより、職員間での情報の共有を徹底し、支援に活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様、入所前の担当者からのアセスメントにより情報収集した上で、入居後においても本人様の希望や言動、家族様からの情報収集を常に行い、プライバシーに配慮しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様々な状況の中、利用者の行動を観察し、会話に耳を傾け、状態の変化が察知出来るよう職員全体で常に意識的に取り組み、心身の変化や持てる能力の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>職員全体でアセスメント・モニタリングを行い、医師や管理栄養士その他様々な担当者からの情報を参考にして本人様や家族様の意向を基に定期的にカンファレンスを実施し、介護計画の作成を実施している。</p>	<p>介護計画書は利用者、家族の意向を確認し、アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催し、作成しています。必要時には医師や看護師、管理栄養士のアドバイスを受けたり、利用者家族を交えて話し合いをしたりしています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を行い、モニタリングをして6か月毎に更新しています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者様の表情や仕草、発した言葉をそのまま記録するよう努め、様々な角度から観察し、業務会議や申し送りにより職員間での情報の共有を徹底し、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人様や家族様の要望に応じて安心して生活が継続出来るよう、併設事業所の特色を生かし、希望の他事業所への支援や変更、外出時の対応や入浴設備の提供、ボランティアや様々な行事への参加が可能であり、柔軟なサービスに取り組んでいる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの慰問や保育所との交流会、地域行事へ参加させて頂き、様々な人との交流機会を支援している。また年2回消防署の協力を得て避難訓練を実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様や家族様の同意の上、協力医療機関の医師がかかりつけ医として往診を実施し24時間の相談対応可能となっている。長年通院している医療機関は継続し、また必要に応じてかかりつけ医の紹介により専門医による適切な医療を受けている。	利用者・家族の希望に添った医療機関で適切な医療が受けられるように支援しています。希望者にはホーム提携医師の往診が受けられます。また、必要に応じて専門医の医療を受けることができます。ホームでは提携医師の協力により、24時間医療連携支援を行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配属し、日々の健康管理や身体状態の把握を行いながら、個々の利用者様の受診や看護を受けて頂いている。また、同一敷地内に診療所があり24時間医療連携を整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は定期的に面会や連絡を行い状態の確認や医療関係者と情報交換を行いながら早期に退院できる体制を敷き、また診療所が他医療機関と連携を図り、迅速に対応出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を明確化し、契約時に本人様や家族様との話し合いにより十分な説明を実施している。かかりつけ医や看護師、関係機関と相談しながら情報を共有した上で、可能な限り対応している。	終末期支援については、入居契約時に「利用者家族の希望に添って可能な限り支援を行う」方針を説明しています。重度化した場合には、利用者家族の意向を再度確認し、医師や看護師、家族と相談しながら支援を進めています。ホームでは、終末期支援を行った経験があります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し対応に備えている。また、定期的に研修機会を設け、全職員が実践出来るよう努め、医療機関との連携により医師の指示に従って迅速に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し速やかに避難誘導が出来るよう備えており、消防署指導のもと、年二回の避難訓練を実施している。また運営推進会議や地域との交流機会を通じて協力が得られるよう努めている。	災害対策マニュアルを作成し、法人が主体になり消防署立ち会いの上で、年2回の防災避難訓練を実施しています。職員は利用者を安全かつ、速やかに避難場所へ誘導するように取り組んでおり、その状況を写真に残して共有しています。また、運営推進会議や地域交流の場を通じて、非常災害時の協力体制について話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護規定を作成し、利用者様や家族様には説明している。プライバシー保護について法人全体で研修会を実施しマニュアルも作成している。日常から利用者様への接遇や対応について検討し、ケース記録や個人情報記録の取り扱いや保管には留意している。	プライバシー保護についてはマニュアルを作成しており、法人全体で研修を実施しています。職員は一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学んでいます。また、個人情報保護規程を作成し、秘密保持については職員と契約書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護目標として掲げており、普段から利用者様に寄り添い、安心感が持てるような接し方を心掛けており、話しやすい環境や雰囲気作りに努めている。自己決定を促す場合は、本人様の能力に応じて具体的に理解しやすい選択肢を示している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意向やペースを尊重した支援を行っている。日々の日課により規則正しい生活援助は行っているが、一人ひとりの日々の希望を汲み取れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類に関しては利用者様の好みに合わせ、家族様をご用意して頂いた衣類を身に付けて頂いている。また、訪問理容や、行けつきの美容院への利用など、個々の希望に応じた支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り食事の準備片付けは一緒に行い、何気ない会話から良好な関係を築くことが出来るよう努めている。食事作りやおやつ作りも定期的に行う事で、役割として定着し、生きがいとなるよう支援しているが、年々一緒に居る利用者数は減ってきている。	食事は併設する特養の厨房で作られ、搬入されます。職員はホーム内でご飯を炊き、搬入されたおかずを利用者の状況に合わせて食べやすく盛り付けています。利用者は、準備や片付け等できることを一緒に実施しています。職員は月に数回、食事作りやおやつ作りを利用者と共に取り組み、調理を楽しめるように支援しています。また、利用者の希望に添って外出に出かける支援もしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月給食会議を実施し、管理栄養士の指導のもと定期的に嗜好調査を行い、医師と相談した上で利用者の状態に合わせた食事形態を提供している。家族様とも相談した上で、好みに応じた食事内容や飲み物を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の状態に合わせ声掛けや見守り介助にて毎食後口腔ケアを行っている。また、毎週の訪問歯科診療により口腔状態の確認を実施し、家族様にも報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して排泄パターンを把握しながら、個別に定時介助を実施している。夜間帯は必要に応じてポータブルトイレを設置してトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を確認してトイレ誘導を行い、極力おむつ類に頼らない支援をしています。夜間対応としてはポータブルトイレを活用し、時間を見て声かけをするなど細やかな対応をしています。やむを得ず失敗があった場合には、シャワー浴等で対応し、清潔に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分チェックや食事量の確認に努め、散歩や運動機会を設けて自然排便を促す取り組みを行っている。また、便秘傾向のある利用者様は医師へ報告し薬剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外毎日実施しており、基本的に週三回入浴して頂いています。利用者様の希望や状態に応じて臨機応変に変更している。また、併設事業所の機械浴の活用や、菖蒲湯・ゆず湯などを実施し季節感を感じて頂けるよう工夫している。	週3回の入浴を支援しています。希望があれば予定外の入浴もできます。また、体調や気分がすぐれない場合には翌日に変更したり、時間を変更したり、臨機応変に対応しています。シャワー浴を行ったり、併設する施設の機械浴を活用したり、柚子湯や菖蒲湯など季節の湯を楽しんだりしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	生活のリズムを整える為、日中 は外気浴や散歩、レクリエーシ ョンなどにより活動的に過 ごして頂き、自然な睡眠がと れるよう支援している。眠れな い利用者様に対しては、職員 とお話をしたり温かい飲み物 を提供し、安心して眠れる よう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量に ついて理解しており、服薬の 支援と症状の変化の確認に 努めている	提携している薬局に依頼し一 包化し、薬剤情報提供書を 保管している。服薬介助は 看護師もしくは介護職員に てマニュアル化し、誤薬防 止に努め、状態変化や異常 発見時は速やかに医師に 報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとり の生活歴や力を活かした役 割、嗜好品、楽しみごと、 気分転換等の支援をしてい る	利用者主体によるレクリエー ションにより楽しみを持ち、 お掃除や水やりなど役割を 担って頂き、生活の活性化 を支援している。利用者様 のADLの低下に伴い、個 々に応じた様々な取り組み を検討していかなければな らない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に合わせて定期的に外出する機会を設け、家族様とは事前に調整しながら自由に外出して頂いている。普段行けない場所はボランティアを活用しながら出来る限り外出して頂いている。しかし、頻度は減っており、特定の利用関係者にしか協力が得られない場合があり、個別的に取り組んで行かなければならない。	利用者が積極的に外出を希望される場合には、職員が付き添い、ホーム周辺を散歩したり公園に出かけたり、買物に出たりしていますが、外へ出ることを希望されない利用者の中には、外出の機会が少ない状況です。行事で外出する場合にはボランティアの協力を得るなどして、皆で出かけるようにしています。また、家族の協力を得て外食や墓参りなどにも出かけられるようにしています。	ホームでは一人ひとりの利用者がこれまで以上に外へ出て、いろいろな経験をして楽しめるよう取り組みを進める予定です。今後は、取り組みの成果が期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な利用者様には所持して頂いている。しかし、管理が困難な利用者様が多く、外出時において要望に応じ立替にてお金をお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	要望のある利用者様に対しては、随時公衆電話から掛けて頂いている。介助が必要な利用者様には都度援助を行い、手紙はポストへの投函援助も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や玄関には四季折々の花を活けメダカの水槽を設置し生き物と接する機会を設け、やすらげる工夫をしている。温度・室温はこまめに調節し、落ち着いて過ごして頂けるよう配慮している。	廊下を広くしてユニット間の行き来ができるようにしています。各ユニットにトイレは3カ所あり、利用者がゆっくり利用できるスペースがあります。食堂兼居間にはソファやイスを置き、利用者がくつろげるようにしています。居間には日めくりカレンダーを置いて、月日が分かるように工夫したり、行事で出掛けた写真を飾ったりして、楽しかった思い出を共有しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子を置き、談笑が出来るスペースや一人用のソファも設置して、ゆっくりと落ち着いて過ごして頂ける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様一人ひとりの意向を尊重し、居室には親しみのある使い慣れた物を自由に持ち込んで頂けるよう家族様と協力しながら、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	居室は明るく、ガラス戸を開けるとベランダに出られるようになっていました。居室からは見晴らしが良く、景色を楽しむことができます。利用者は、居室に馴染みの家具やテレビ、仏壇、写真、ぬいぐるみなどを置き、落ち着いて過ごせる場所にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの残存機能を生かし、歩行しやすいように手摺りや環境作りに努め、車椅子の方でも自走しやすいよう配慮している。また、自分の部屋が認識しやすいよう目線に合わせた大きな表札やプレートを吊り下げている。		